◆　コスモエネルギーホールディングス（5021）

2021 年度　第一四半期決算　アナリスト・機関投資家向け決算説明会　質疑応答

－　本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。末尾に注意事項を記載しています。　－

１．日時　：　2021 年 8 月 6 日（金）　10 時 00 分～11 時 00 分

２．出席者　：　75 名

３．主な質疑内容　：

Q1:石油開発事業の 1Q 実績における数量減について、前年比▲43 億円の内訳を教えてほしい。

A1:前年に発生した前々年からの販売期ずれ影響の解消が主要因。加えて、カタール石油開発のトラブルによる生産数量減が数億円程度含まれる。カタール石油開発についてはトラブルを復旧すべく様々な検討を行っており、下期以降には回復する見込み。

Q2:陸上風力について、政策的にどのような後押しがあれば開発案件が増える可能性が高まるのか。

A2:今年の 1 月から実施されているノンファーム接続については、現時点における政策の後押しと考えている。今後については、更なる送電網の増強を期待している。送電網の増強が進めば特に北海道エリアで検討しやすくなると考えている。

Q3:VPP や蓄電池の技術の進歩が陸上風力の開発に与える影響について、どのように考えているか教えてほしい。

A3:我々もいくつかの検証実験へ参加しており期待はしているが、現状としては検証段階という認識のため、事業計画には織り込んでいない。

Q4:先日入札を締め切った秋田由利本荘市沖における洋上風力プロジェクトについて、参加しているコンソーシアムの強みと公募の結果公表時期を教えてほしい。

A4:事業を進めるに当たって、地域の方々に様々な理解を得てきたところが我々の強みだと認識している。事業者選定においては価格以外の地元への貢献等の配点が半分を占めている。入札の結果については、今年の秋から冬にかけて公表されると想定している。

Q5:石油事業の 1Q 実績について、計画比の上振れ要因について教えてほしい。

A5:石油事業の在庫評価除き経常利益は計画比で 120 億円程度上振れしており、内訳はマージンで約 80 億円、販売数量で約 10 億円。

マージンについてはタイムラグの影響、LSC やナフサ市況を厳しめに想定していたことが主な上振れ要因。数量についてはコロナ影響の反動と販売の営業努力によるものと考えている。

Q6：洋上風力プロジェクトにおける、促進区域の指定に向けたスケジュールを教えてほしい。
A6：秋田由利本荘市沖以降の案件について、まずは青森西北沖が促進区域へ格上げされると期待している。また、秋田中央海域、山形遊佐沖、新潟北部沖については、８月中に有望区域に格上げされる可能性がある。

Q7：石油化学及び石油開発の 1Q 実績について、計画比の上振れ、下振れ要因を教えてほしい。
A7：石油化学はベンゼンとパラキシレンの市況改善が主な上振れ要因。石油開発については 1-3 月期のため、計画比での増減は概ねなかった。

Q8：風力発電事業における新規案件の状況を教えてほしい。
A8：陸上風力については、過去に系統確保ができずに断念したエリアについて、ファーム型接続、ノンファーム型接続含めて検討を進めている。洋上風力についても、様々な地域で可能性を検討している。

Q9：石油化学は市況があまり良くなかったと思うが、1Q 実績が高い要因を教えてほしい。
A9：パラキシレン市況は低迷しているが、ベンゼン市況の良化が大きく寄与している。この市況を維持することができれば、相応の収益が継続すると考えている。

Q10：石油化学の市況について、ファンダメンタルズの状況を教えてほしい。
A10：オレフィン市況の 1Q の状況について、供給側については、北米における今年の年初の寒波の影響で石化プラントが停止したことや、韓国におけるエチレンクラッカーのトラブルによって市況がタイトになった。
一方、需要側ついては、特にベンゼンの誘導品であるスチレンモノマーが非常に好調だったことで、ベンゼン市況が良かった。また、エチレン市況についても想定より好調だった。

Q11：政策保有株の売却については推進されていると思うが、今後の方針を教えてほしい。
A11：ご認識の通り保有株の売却はしっかり対応してきた。コーポレートガバナンスコードでもある通り、引き続き削減を進めていきたい。個別の事象については回答を控えさせていただくが、資本コスト等を検証し、継続保有すべきか選別を行っている。

Q12：2020 年度通期決算説明の際にカーボンネットゼロ宣言の話があったが、進捗があれば教えてほしい。また、次期中計策定にあたり、株式市場の声をどのように反映させていくのか、考えがあれば教えてほしい。

A12：SDGs のテーマについては、TCFD を中心として開示に向けて検討を進めている状況。この 3 ヵ月の進捗としては、今まで一部の取締役を含む委員会の形式で議論してきたが、レベルを格上げし、取締役で構成する会議体にて議論を進めている。

また、次期中計策定に際しては株式市場としっかりエンゲージメントをしていきたいと考えている。

Q13：秋田由利本荘沖において、部分的に落札した場合はスケジュールに影響するのか。

A13：70 万 KW が 5 万 KW になるといったレベルではないという前提で考えると、一般的にこういったものの建設期間は規模によって大きく変わらないので、スケジュールへの影響はほとんど無いという認識である。

以上

本書の記述及び記載された情報は、将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれております。これらの記述は、現時点で入手可能な情報から判断した見通しによるものです。
このため、実際の業績は、様々な外部要因により、本書に記述および記載された情報とは異なる結果となる可能性があることをご了承ください。